

平成28年度 全国学力・学習状況調査

平成28年4月に全国の小学6年生を対象に実施された全国学力・学習調査の調査結果の概要をお知らせします。

【調査結果概要】

平均正答率

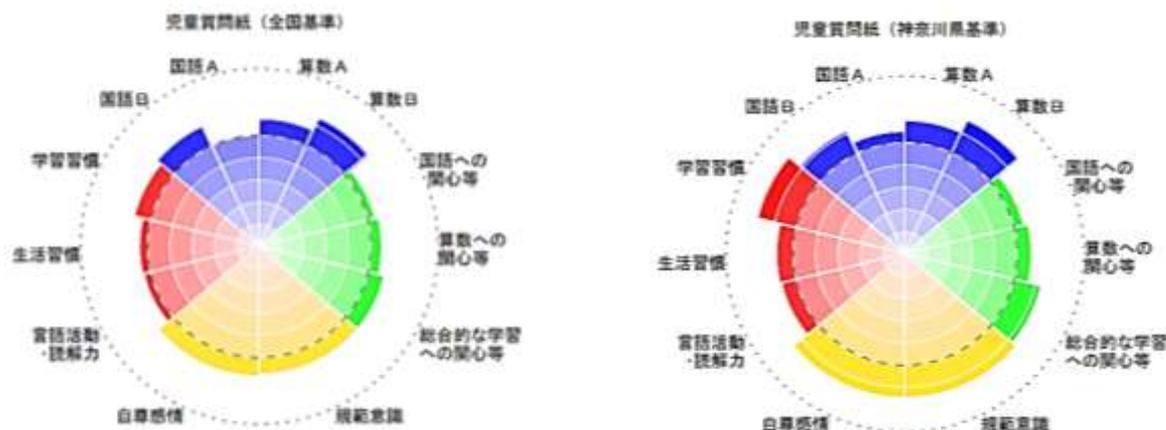
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
大豆戸小学校	72.6	65.2	82.8	56.4
全国との差	-0.3	+7.4	+5.2	+9.2
神奈川県	70.3	58.2	76.6	47.3
全国	72.9	57.8	77.6	47.2

国語・算数、全てにおいて神奈川県の正答率を上回っている。特に、【国語 B：主として活用】【算数 A：主として知識】【算数 B：主として活用】では、神奈川県・全国をそれぞれ5%～9%以上も上回る結果となった。

算数Bでは特に、数量や技能についての正答率が全国平均を大きく上回っていた。文章題を読み、2つの量の関係を式に表して答えを求めることができていた。学んだ基礎・基本的な算数の知識やきまり、公式を適切に活用して、問題を解くことができていた。基礎・基本的な学習の定着をしっかりと図ってきた成果が表れていると考えられる。

【国語 A：主として知識】では、若干全国平均を下回った。特にローマ字を書いたり、読んだりすることに躓いていた。ローマ字に親しむ機会が少ないことも理由としてあげられるが、適宜機会を見て、ローマ字にはふれていくようにしていく。

【児童質問紙 結果チャート】



児童質問紙からは、教科において神奈川県・全国と比較し、意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。しかし、国語に関しては苦手意識をもっている児童が若干多いので実生活で生かされるような「言語活動」を取り入れ、身に付ける力を明確にしながら、国語への関心意欲を高めていきたい。